

東京都内のホテル稼働率が水準を維持している。日本経済新聞社がまとめた主要18ホテルの2月の平均客室稼働率は82・8%。11カ月ぶりに前年同月を下回ったものの、平日や土曜日がほぼ満室状態とされる8割を超えた。宿泊料金も上昇しており、郊外や割安なビジネスホテルに顧客が流れている。大阪市内や京都中心部も状況は変わらない。

春節（旧正月）に伴って中国の大型連休に重なったこともあり、2月の訪日客数は前年同月を36%上回る189万人に膨らんだ。宿泊ニーズは依然旺盛で、稼働率は前年同

ホテル稼働率 高水準続く

都内2月、11カ月ぶり減でも80%台

安さ求め郊外も人気



都心ホテルでは、高水準の稼働率を背景に客室単価が上昇している（ホテルオークラ東京）

月に比べ2・5%低下したが、2カ月ぶりに8割を上回った。

集客が順調に進んでい

料金を下げる必要がなく

なっている。低額の宿泊

以上上がった都内のホテ

東京（同）は「東京以外

都心ホテルでは、高水準の稼働率を背景に客室単価が上昇している（ホテルオークラ東京）

・3割上昇。京都中心部も稼働率が高く、客室単価が高くなったため、郊外に宿泊客が流れる傾向が強くなっている。大阪市周辺や、和歌山県、京都に隣接する滋賀県といった周辺地域のホテルも稼働率は高水準だ。

旺盛な需要を背景にホテル開発の動きも活発になっている。都内に3軒を抱える米ヒルトン・ワールドワイドが「さらにはワシントンホテル」では富士山などの定番ルートを旅行する訪日客らの姿が増え、2月の稼働率は90%台という。

大阪市内の主要12ホテルの2月の平均稼働率は87・6%と前年同月比0

大阪でも京阪電気鉄道子会社のホテル京阪が17年に中心部に新施設を開業するほか、西日本旅客鉄道も市内に新たなホテルを造る予定だ。

高稼働率を支えてきた訪日中国人の宿泊需要については見方が分かれる。ホテルメトロポリタ（豊島区）は中国経済の鈍化を映し「152年前に比べて春節時期の勢いは弱まった」としている。品川プリンスホテル（港区）は稼働率こそ87・1%と2・4%低下しているが、中国人客は前年比13%増え、中国人の需要の陰りは見えない（赤坂茂好・プリンスホテル社長）。